

NPO 法人リスペクトアニマル

設立趣旨書

現在、私たちの国日本、そして世界では、人間が生存するために、天文学的なおびただしい数の動物たちが日々殺害され、人々に食されています。この地球上では、1秒間に4万もの動物たちの生命が人間の犠牲となっているとも言われており、全ほ乳類の96%が人間とその家畜で、野生のほ乳類はわずか4%しか生存していません。

また、酪農・畜産・漁業など、膨大な数の動物たちを人間が人工的に誕生させ、濃厚飼料や抗生物質の大量投与によって飼育し、集約的に管理支配し、そして最後は殺害し食するという工場畜産は、自然生態系へ与える影響も、人間の健康に与える被害も甚大です。飼育施設や飼料作物の生産には、広大な土地を必要とし、野生動物の生息域も奪っており、野生動物の絶滅にも拍車をかけています。

本来、牛や豚や鶏などの畜産動物も、私たち人間と同じように恋をし子育てをし、感情や知性を持ち個性ある社会生活を営む生きものです。そのような動物たちを、この地球で共に生きる仲間として尊敬し、その尊厳と生きる権利を守っていくことは、食物連鎖の頂点に立つ今日の私たちにとって、とても大切な責務です。

動物たちをめぐる現状を少しでもよくするためには、一般市民ひとりひとりに、動物たちが今置かれている悲惨な状況と地球環境問題が深く結びついていることを知っていただき、企業や社会教育、議会、行政、司法に携わる人々ひとりひとりへの意識啓蒙・啓発が必要不可欠です。2020年には、国連環境計画のレポートでも「温室効果ガス削減目標（NDC）には、持続可能な食品システム（植物ベースの食事）への移行が重要」と発表されています。

また、すでにヴィーガンとなって生きている人々が、対立を生じさせないより効果的なコミュニケーション方法や知識を学び、ヴィーガンを擁護する人々も巻き込んでいって、ヴィーガン運動を今まで以上に深く広く押し進めていくことが重要です。そして、動物たちの問題が、女性や男性、LGBTQが抱える社会的問題、先住民族や障害者の権利、他のマイノリティの人たちの問題と同じように、社会正義の問題として市民に認知されなくてははいけません。

当団体は、野生動物や酪農・畜産・漁業など食用とされる動物たちの救出や保護養育、権利擁護を行うファームアニマルサンクチュアリを運営することにより、それらの動物たちの生命の尊さとするばらしさを広く市民に啓蒙、教育するとともに、さまざまな調査研究や政策提言を通して、人間による動物たちの収奪や支配搾取、生命の殺害のない新しいフードシステムを構築することで、人間が動物たちを尊敬し動物たちと優しく共生していける社会と地球環境づくりに貢献していきます。

このような活動を行うにあたって、公正かつ透明性の高い運営を行い、さまざまな契約を結び、社会的な信用を得て広く活動するためには、法人格が必要となります。当団体は営利を目的としておらず、主にボランティアによる活動となることから、NPO 法人として設立することを決意しました。

当団体のような「ファームアニマルサンクチュアリ（畜産動物の保護とサンクチュアリの運営を行う団体）」は、アジア・欧米など、海外には数多く存在しますが、寄付文化のない日本ではほんとうに少なく、前途多難な活動だとは思いますが、動物たちの苦しみを少しでもなくしていくために力を尽くしたいと考えています。

みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

2023年 1月 14日

特定非営利活動法人リスペクトアニマル 設立代表者 安岡菊之進